

令和 6 年度 事業報告書

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

東京都千代田区丸の内一丁目 6 番 1 号

公益財団法人 日立財団

目 次
(令和6年度事業報告書)

1.	学術・科学技術の振興	1
1. 1	倉田奨励金	1
1. 2	日立財団科学技術セミナー	5
1. 3	日立財団アジアイノベーションアワード	5
1. 4	日立感染症関連研究支援基金	8
2.	人づくり	8
2. 1	理工系人財育成支援事業	8
(1)	日立みらいイノベータープログラム（小学生向け）	8
(2)	理工系女子応援プロジェクト（中・高生向け）	9
3.	多文化共生社会の構築	9
3. 1	「多文化共生社会の構築」	9

1. 学術・科学技術の振興

1. 1 倉田奨励金

本事業は令和5年度までに、1,613件の研究テーマに総額約26億円を助成し、国内の研究活動の支援を行ってきた。また、旧5財団統合を機に行った見直しで、助成対象を社会課題解決に資する研究とし、その後、自然科学研究に加え人文・社会科学研究部門にも助成し、先駆的な助成事業として認知されてきた。

令和6年度の助成金の交付の内容は下記の通りである。

(1) 助成対象者

- ①日本国内の大学及びその附属研究施設、研究機関、高等専門学校に所属する研究者（株式会社所属する研究者は除く）。大学院生の応募可。
- ②所属機関長（総長・学長、研究科長、学部長、理事長、研究所長、直属の上長等）の推薦書を必要とする。推薦の数に制限無し。
- ③国籍は問わない。ただし日本国内に居住し、研究期間終了まで国内に継続した研究拠点を有する見込みの方に限る。
- ④自然科学・工学研究部門：募集年度4月1日現在の年齢が45歳以下であること。
人文・社会科学研究部門：年齢制限無し。

(2) 助成部門

①自然科学・工学研究部門

国際的な視野で社会課題の解決に資する、独創的、先駆的な研究。分野は以下の3つとし、自然科学・工学研究の観点による学際的研究も対象とする。

I. エネルギー・環境 II. 都市・交通 III. 健康・医療

②人文・社会科学研究部門

科学技術の進歩がもたらす社会の変容、その背景に潜む複合的な諸問題を人文・社会科学の視点（社会、文化、文学、歴史、哲学、倫理、法律、経済等）から読み解き、科学技術の発展の意味や価値と社会のあり方を探求する研究。

(3) 助成金額：（ ）は研究期間

自然科学・工学研究部門

（1年）最大100万円／1件

（2年）最大300万円／1件

人文・社会科学研究部門

（1年）最大100万円／1件

(4) 募集方法

募集は公募とし、案内を当財団ホームページに掲載し募集した。

募集期間は令和6年7月1日～9月15日とした。

(5) 選考委員

・選考委員長

花木 啓佑 東京大学名誉教授、東洋大学名誉教授

・選考委員

石田 東生 筑波大学名誉教授

小原 春彦 産業技術総合研究所 執行役員/エネルギー・環境領域長

垣見 和宏 近畿大学医学部 主任教授

神里 達博 千葉大学国際学術研究院 教授

岸本 充生 大阪大学社会技術共創研究センター長/D3 センター 教授

鈴木 淳 東京大学大学院人文社会系研究科 教授

津本 浩平 東京大学大学院工学系研究科 教授

塙 隆夫 東京医科歯科大学名誉教授

松岡 秀行 日立製作所研究開発グループ基礎研究センタ技術顧問、
日立東大ラボ長

松本 健郎 名古屋大学大学院工学研究科 教授

(6) 助成金の贈呈

大学：105 校、研究機構：19 機関から計 342 件の応募があり、選考委員会にて慎重かつ厳正に審査を行い、自然科学・工学研究部門 28 件（エネルギー・環境：7 件、都市・交通：4 件、健康・医療：17 件）、人文・社会科学研究部門 11 件の計 39 件に対し、合計 5,500 万円を交付するとして選考結果を、理事長の承認を得て決定した。令和 7 年 3 月 3 日（月）に贈呈式を実施、同 3 月、開催報告を当財団ホームページに掲載した。

令和 6 年度採択研究テーマ一覧(39 件)

奨励金 No.	研究テーマ	代表研究者	所属	役職	研究 期間	決定金額 (円)
自然科学・工学研究部門／エネルギー・環境 7 件						
1614	硬質ポリウレタンのケミカルリサイクル手法の開発	岩崎 孝紀	東京大学	准教授	2 年	2,500,000
1615	酸性環境 CO 電解還元のための電解質アニオン添加による Cu 触媒構造制御	小畑 圭亮	東京大学	講師	2 年	2,500,000
1616	陸面モデルにおける丘陵斜面の気候不均一性の表現による陸水推定の改善	李 庶平	東京大学	特任研究員	1 年	1,000,000
1617	可視光を活用できる安定性の高いイオン性有機光触媒の開発	田中 健太	岡山大学	助教	1 年	1,000,000
1618	原子クラスターの固有原子配列を利用した高効率 CO ₂ 変換 / H ₂ 生成触媒の開発	塚本 孝政	東京大学	講師	2 年	2,500,000
1619	ポリペプチドを基盤としたケミカルリサイクル可能なポリアミド材料の開発	土屋 康佑	東京大学	准教授	2 年	2,500,000
1620	金属有機構造体を正極に用いた全固体 Li 電池の開発	中山 亮	東京大学	特任助教	1 年	1,000,000
自然科学・工学研究部門／都市・交通 4 件						

奨励金 No.	研究テーマ	代表研究者	所属	役職	研究 期間	決定金額 (円)
1621	下水処理場を創エネ施設へと 転換する高速嫌気性膜分離法 の開発	角田 貴之	中央大学	助教	2 年	2,500,000
1622	オールド・ニュータウンから ヘルシー・ニュータウンへ： 居住者の歩数を増加する都市 変容	加登 遼	大阪公立大学	講師	1 年	1,000,000
1623	現地観測に基づく街区内温熱 環境の準リアルタイム予測シ ステムの構築	川本 陽一	九州大学	助教	2 年	2,500,000
1624	持続可能な地域拠点の実現に 向けた在郷町における近代以 降の公共的空間の変容過程の 解明	柴田 純花	東京大学	大学院生	1 年	1,000,000
自然科学・工学研究部門／健康・医療 17 件						
1625	光子計数型 CT 装置を用いた 被写体の組成分析技術の循環 器領域利用に向けた研究	浅原 孝	岡山大学	助教	1 年	1,000,000
1626	マイクロ・ナノプラスチック がマイクロバイオーームを介し て発がん、発育に与える影響 の解明	大原 悠紀	名古屋大学	特任助教	1 年	1,000,000
1627	新規開発ハイドロゲル素材を 用いた末梢神経再生治療法の 確立と臨床応用	小川 正太郎	東京大学医学 部附属病院	病院診療医 (大学院生)	1 年	1,000,000
1628	熟成ニンニク抽出液を用いた 特発性肺線維症急性増悪治療 の試み	加藤 元康	順天堂大学	助教	1 年	1,000,000
1629	新規老齢脳特異的マイクログ リアの同定とその機能解析	岸 雄介	東京大学	准教授	2 年	3,000,000
1630	クライオ電顕構造情報と AI を組み合わせた次世代創薬技 術の開発	木瀬 孔明	東京大学	特任准教授	2 年	3,000,000
1631	分子化学反応のリアルタイム 計測を可能にする蛍光偏光顕 微鏡の開発	齋藤 卓	愛媛大学	准教授	1 年	1,000,000
1632	局所温度制御に基づく抗菌性 チタンインプラントの新機能 開拓	島袋 将弥	東京科学大学	助教	1 年	1,000,000
1633	環境水からのノドウイルス目 ウイルスの網羅的探索	中川 草	東海大学	准教授	1 年	1,000,000
1634	記憶細胞分化とがん免疫の抑 制因子を標的とした次世代 CAR NK 細胞の基盤技術の開 発	鍋倉 幸	愛知県がん センター研究 所	分野長	1 年	1,000,000
1635	食事時間が全身恒常性維持と 健康に与える影響の統合オミ クス解析による理解	羽鳥 恵	名古屋大学	特任准教授	2 年	3,000,000
1636	癌細胞特異的糖鎖の網羅解析 と治療応用～糖鎖工学と医学 の融合	早河 翼	東京大学医学 部附属病院	講師	1 年	1,000,000
1637	正確かつ簡便なウイルス定量 を実現するシェードプラスチ ック性を有する流体重層材の開 発	廣瀬 亮平	京都府立医科 大学	講師	1 年	1,000,000

奨励金 No.	研究テーマ	代表研究者	所属	役職	研究 期間	決定金額 (円)
1638	糖質摂取行動のエピジェネティクスの制御機構の解明	松居 翔	京都大学	助教	1 年	1, 000, 000
1639	オートファジーによる腫瘍形成抑制効果の分子基盤の解明	森下 英晃	九州大学	教授	2 年	3, 000, 000
1640	放射線散乱抑制形状を実現するための金属粉体含有 3D プリント用樹脂材料の研究開発	山田 泰之	法政大学	准教授	1 年	1, 000, 000
1641	超分子ダイナミクスの制御とドラッグデリバリー応用	若林 里衣	九州大学	准教授	1 年	1, 000, 000
人文・社会科学研究部門 11 件						
1642	女性作家による文学と科学の対話：有吉佐和子『複合汚染』を中心に	江口 真規	筑波大学	助教	1 年	730, 000
1643	〈延命〉と呼ばれる科学技術の具体的内容とその価値に関する生命倫理学的分析	柏崎 郁子	東京女子医科大学	講師	1 年	800, 000
1644	民主主義と独裁政治において、人員動員がどのような影響を及ぼすか：体制存続メカニズムにおける技術的空間	カルシガリライアン	東京外国語大学	研究員	1 年	950, 000
1645	日本における消費者直販型の遺伝祖先検査に関する倫理的検討	佐藤 桃子	理化学研究所	リサーチ アソシエイト	1 年	970, 000
1646	近世・近代の日立・別子鉱山開発の環境影響：科学技術はどのように役立てられたか？	高橋 卓也	滋賀県立大学	教授	1 年	1, 000, 000
1647	パーソナルデータの収集・利用における適切なインフォームド・コンセントに関する研究	茶谷 直人	神戸大学	教授	1 年	800, 000
1648	ラオスと日本の養蜂文化の比較：ミツバチの誘引植物と人工誘引剤に着目して	続木 梨愛	京都大学	博士課程 学生	1 年	1, 000, 000
1649	脳波等の計測による感情認識技術と障害者等の内心の自由	畑中 綾子	尚美学園大学	准教授	1 年	1, 000, 000
1650	HPV ワクチン接種対象者の意思決定に影響する価値観の調査・分析	広瀬一隆	京都府立医科大学	博士課程 学生	1 年	900, 000
1651	欧州渡航情報承認制度（ETIAS）と EU 専門機関の役割：責任論の観点から	堀井 里子	国際教養大学	准教授	1 年	850, 000
1652	ゲノム編集に関する法的ルール確立に向けた基礎的研究	三重野 雄太郎	佛教大学	准教授	1 年	1, 000, 000
					合計	55, 000, 000

（7）研究成果報告

研究期間を終了した受領者 53 名の研究成果を「第 53 集 倉田奨励金研究報告書」として発行し、広く一般に公開した。また、代表者 4 名による研究報告会を、令和 6 年度贈呈式当日に以下のとおり開催した。

研究発表者

（エネルギー・環境分野）

奨励金 No. 1527 中央大学 玄 大雄 氏
エアロゾルの気候影響の解明を目指した電気力学天秤の開発
(都市・交通分野)

奨励金 No. 1493 東京都立大学 倉田 陽平 氏
膨大な位置情報付きツイートから地域課題は見つかるか？
(健康・医療分野)

奨励金 No. 1556 東京大学 三村 維真理 氏
急性腎障害から慢性腎臓病移行へのエピジェネティックメモリーの病態解明
(人文・社会科学研究部門)

奨励金 No. 1566 慶應義塾大学 寺西 勇生 氏
製造や販売管理の技術革新がもたらす製品サイクルの短期化とデフレの関係
—大規模な製品価格データを用いた検証—

1. 2 日立財団科学技術セミナー

令和 6 年度は、第 20 回日立財団科学技術セミナーとして、近藤一博氏（東京慈恵会医科大学 疲労医学講座 特任教授）を講師に招き、「疲労とはなにか～すべてはウイルスが知っていた」をテーマに実施した。疲労のメカニズム解明、ウイルスとうつ病と新型コロナウイルス後遺症との関連など、世界をリードする疲労科学研究について解説された。

第 20 回 日立財団科学技術セミナー

- ・ 題目：「疲労とはなにか～すべてはウイルスが知っていた」
- ・ 日時： 令和 6 年 11 月 30 日(土) 13:30～15:00
- ・ 場所： Zoom ウェビナー
- ・ 参加者： 543 名

令和 6 年 12 月、開催報告、および講演のアーカイブを当財団ホームページに掲載した。

1. 3 日立財団アジアイノベーションアワード

アジア地域の社会課題解決に資する科学技術イノベーションの研究及び研究開発の成果に対し表彰する。

令和 6 年度（第 5 回）の表彰内容は下記の通り。

(1) 表彰対象

持続可能な開発目標（SDGs）への貢献を目的として、あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究および研究開発において、画期的な成果をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループとする。

SDGs から毎年度 2 つのゴールといくつかのターゲットを選定し、これらの達成に貢献する研究および研究開発の成果を募集する。令和 6 年度は ASEAN 各国の SDGs 達成状況を鑑み、ゴール 12「つくる責任、つかう責任」と、ゴール 13「気候変動に具

体的な対策を」を選定した。

(2) 対象国、対象とする大学・研究機関

募集内容に合わせて、毎年度 ASEAN 各国の中から、対象国、対象大学および研究機関を選定し、応募者を推薦いただく。応募者は、対象大学または研究機関に所属し自国で研究を行う研究者、教員、学生とする。令和 6 年度はゴール 12 と 13 に課題が多く残り、国の研究資金などが少ない、中低所得国 6 か国（カンボジア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、ベトナム）を選定し、下記 26 大学・研究機関を対象とした。

カンボジア	カンボジア開発資源研究所
	カンボジア研究・農村開発研究所
	カンボジア工科大学
	王立農業大学
	王立プノンペン大学
インドネシア	ガジャマダ大学
	スラバヤ工科大学
	インドネシア大学
	北スマトラ大学
ラオス	国立農林研究所
	ラオス国立大学
	エネルギー・資源研究所
	サバナケット大学
	スファヌボン大学
ミャンマー	マンダレー大学
	ヤンゴン大学
	ヤンゴン工科大学
	イエジン農業大学
フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学
	デ・ラ・サール大学
	フィリピン大学ディリマン校
	フィリピン大学ロスバニオス校
ベトナム	ハノイ工科大学
	ホーチミン市工科大学
	フエ大学
	トンドゥックタン大学

(3) 表彰内容

- ・ 最優秀賞 副賞 賞金 300 万円/件
- ・ 優秀賞 副賞 賞金 100 万円/件
- ・ 奨励賞 副賞 賞金 50 万円/件

(4) 募集方法

事前に確認した対象大学・研究機関の窓口となる部署の担当者に対し、募集要項・申請書等を電子メールで送付し、窓口部署からの電子申請のみ受け付けた。募集期間は令和6年4月1日～6月28日とした。

(5) 選考委員

・選考委員長

Monte Cassim 国際教養大学 学長

・選考委員

河野 泰之 京都大学 副学長 東南アジア地域研究所 教授

佐藤 百合 独立行政法人 国際交流基金 理事

西野 由高 筑波大学 国際産学連携本部 本部審議役 教授

前田 英作 東京電機大学 システムデザイン工学部 学部長・教授

(6) 選定結果

合計 41 件の応募があり、選考委員会にて慎重かつ厳正に審査を行い、最優秀賞 1 件、優秀賞 4 件、奨励賞 9 件を選定。

令和6年度表彰案件一覧

賞	研究テーマ	代表研究者	所属大学	SDGs Target
最優秀賞	環境にやさしい養殖魚病害防除とバイオ肥料生産のための海藻の廃棄物ゼロプロセス	Dr. Alim Isnansetyo	ガジヤマダ大学	12.2 12.4 12.5 12.8 12.a
優秀賞	フルフルール製造および廃水処理への応用を目指したバイオマスからのナノマテリアル合成	Dr. Hieu Huu Nguyen	ホーチミン市工科大学	12.4 12.5
優秀賞	環境革新型複合製品としてのジオポリマーとアルカリ活性材料	Dr. Michael Angelo Baliwag Promentilla	デ・ラ・サール大学	12.2 12.4 12.5 12.a
優秀賞	ベトナム固有種薬草由来の医薬製品の研究開発	Dr. Nhung Ai Thi Nguyen	フエ大学	12.2 12.4 12.5 12.8 12.a
優秀賞	テンペ産業の副産物を利用したマイコプロテインの生産	Dr. Rachma Wikandari	ガジヤマダ大学	12.2 12.4 12.5
奨励賞	機械化学および表面工学(MCS)のアプローチを活用した高活性金触媒とバイオマスベースのナノ複合材料の開発	Dr. Dien Xuan Luong	ハノイ工科大学	12.2 12.3 12.4 12.5 12.8 12.a
奨励賞	アンサンブル予報を用いたインドネシアの気象予測改善による気候レジリエンスの強化	Dr. Heri Kuswanto	スラバヤ工科大学	13.1
奨励賞	感染対策と免疫調整のための多用途の生体機能化医用材料の開発	Dr. Ika Dewi Ana	ガジヤマダ大学	13.1 13.3
奨励賞	世界のメタン収支に及ぶフィリピン湖沼の影響度の理解	Dr. Milette Mendoza Pascual	アテネオ・デ・マニラ大学	13.1 13.2 13.3 13.b
奨励賞	ラオス・ルアンプラバン県における豚の飼育による環境・気候変動に対する豚ふん尿汚染の管理	Dr. Noupphone Manivanh	スファヌボン大学	13.1 13.2 13.b
奨励賞	コメ生産・水産養殖の持続可能性に向けたエコ戦略	Dr. Phuong Nguyen Xuan Vo	トンデュックタン大学	12.4 12.5 12.8 12.a
奨励賞	持続可能な紙生産に向けたバクテリアナノセルロースへの製紙スラッジの変換	Dr. Quan Dinh Nguyen	ホーチミン市工科大学	12.2 12.5

賞	研究テーマ	代表研究者	所属大学	SDGs Target
奨励賞	大豆かすと大豆残渣の高付加価値化によるカンボジア産大豆イノベーション	Dr. Reasmey Tan	カンボジア工科大学	12.2 12.3 12.4 12.5 12.a
奨励賞	ベトナム産農産物による健康への利益と持続可能な植物性製品の開発	Dr. Trang Thu Vu	ハノイ工科大学	12.2 12.a

(7) 表彰対象者決定

選考委員会の結果を選考委員長から日立財団理事長に対し報告し、理事長の承認を得て、表彰対象者を決定した。令和7年1月末に、当財団ホームページに受賞者を公開した。

URL : <https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics110.html>

1. 4 日立感染症関連研究支援基金

社会経済活動が複雑に連結する国際社会において、新型コロナウイルスのパンデミックによって世界各国は甚大な被害を受け、政治経済、法制度、科学技術、国際関係などさまざまな分野において課題や脆弱性が顕在化した。そのような課題をデータやエビデンスをもとに学術的に調査、分析、考察し、その知見や研究成果を広く国際的に共有するための研究支援基金。

令和6年度は、令和7年2月26日（水）に、助成対象研究プロジェクトの研究成果報告会として、国際シンポジウムおよび懇親会を実施した。

開催概要は下記の通りである。

- ・ 題目 日立感染症関連研究支援基金 国際シンポジウム
- ・ 日時 令和7年2月26日（水）16：00～19：05
- ・ 形式 ハイブリッド開催
会場：経団連会館カンファレンス 4階「ダイヤモンドルーム」
オンライン：Zoom ウェビナー
- ・ 言語 日本語・英語（日英同時通訳有）
- ・ 参加人数 会場：53名、オンライン184名

令和7年3月、実施報告およびアーカイブ配信案内を当財団ホームページに掲載。

URL: <https://www.hitachizaidan.org/activities/fundsupport/topics/2503001.html>

2. 人づくり

2. 1 理工系人財育成支援事業

平成28年度に当財団の中核領域である「人づくり」の柱として、中長期的視野に立った「理工系人財育成支援事業」を立ち上げ、創造的で社会をデザインする次世代の人財育成を念頭に、特にSTEAM教育や理工系女子育成の支援を行っている。

(1) 「日立みらいイノベータープログラム」（小学生向け）

「イノベーション創出」ができる次世代の理工系人財を育てることを目的に、日立グループの社員を企業講師として派遣し、小学校5年生を対象とした課題解決型の探求学習プログラム「日立みらいイノベータープログラム」を実施している。

令和6年度は、上原小学校（東京都）、光ヶ丘小学校（千葉県）、鷺沼小学校（千葉県）、仲町小学校（茨城県）、高田小学校（大分県）の5校向けに対面、オンラインで実施した。

（2）理工系女子応援プロジェクト（中・高生向け）

女子中・高生の理工系進路へのモチベーション喚起を目的として、さまざまな職業の第一線で活躍する、理工系出身の女性キャリアの方々に登壇いただき、啓発活動を実施することによって、理工系女子育成、人財の多様性の実現とそれによるイノベーションの促進に貢献している。

令和6年度は夏休み期間にパイオニアトークとワークショップを実施した。

タイトル：第100回パイオニアトーク&ワークショップ

未来を変える理工系女子のお仕事

～女性が活躍するエネルギー分野について～

日時： 令和6年7月20日（土）13：00～16：30

場所： 東京工業大学 デジタル多目的ホール

登壇者： 石塚 知香子氏

東京工業大学 科学技術創成研究院

ゼロカーボンエネルギー研究所 助教

ウィリアム・マグウッド氏

経済協力開発機構／原子力機関（OECD／NEA）事務局長

参加者： 女子中高生50名（付き添いの保護者17名）

令和6年10月に当財団のホームページ内特別サイト「わたしのあした」に掲載した。

URL： <https://www.hitachi-zaidan.org/my-tomorrow/dialog/vol10/index.html>

3. 多文化共生社会の構築

3. 1 「多文化共生社会の構築」

性別、国籍、年齢、障がいの有無、性的指向など属性の差異を超え、多様な立場や価値観を認め合って、各々が生き生きと、一体となって生活する社会を「多文化共生社会」と定義し、一般市民に向けて意識改革を促す啓発事業を実施している。令和5年度12月に電子ジャーナル「日立財団グローバル ソサエティ レビュー」を創刊した。令和6年度は、6月に2号と、12月に3号を発行した。

URL： <https://www.hitachi-zaidan.org/global-society-review/index.html>

（1）「日立財団グローバル ソサエティ レビュー」の目的

本ジャーナルは、多文化共生社会の構築に関連する学術分野の有識者が相互に専門性を生かして、意見交換、発展的な交流を行うことで、有機的な結合を促し、多文化共生社会研究を深めるためのプラットフォームの1つとして、効果的に活用出来る新たな研究やネットワークづくりの場とすることをめざす。

(2) 日立財団グローバル ソサエティ レビューのコンテンツ

2号（令和6年6月20日発行）

タイトル 「個から考える多文化共生」

01 巻頭特別インタビュー 「個から考える多文化共生」

星野 ルネ（漫画家／タレント）

是川 タ（編集委員長）

02 論文 ①多文化共生を刷新する-共に生きるための「安全なスキマ」を拓く

石原 真衣（北海道大学アイヌ・先住民研究センター／先住民・文化的多様性研究グローバルステーション（GSI））

②移民国家日本：「移民受入れを認めない」国における移民受入れの現実

ファーラー グラシア（早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科）

「多文化共生社会の構築を目指す前に必要なこと」

03 随想 拙著『アメリカの人種主義～カテゴリー／アイデンティティの形成と転換』をふり返って

竹沢 泰子（関西外国語大学 国際文化研究所）

04 インタビュー 「個から考える多文化共生」

①2つの文化のスキマを生きる

金城 馨［かなぐすく きんじょう かおる］（関西沖縄文庫 主宰）

石原 真衣（北海道大学アイヌ・先住民研究センター／先住民・文化的多様性研究グローバルステーション（GSI） 准教授）

②『在日韓国人になる』の著者と語る多文化共生

林 晟一（教員／評論家）

是川 タ（編集委員長）

③とよなか国際交流協会 三木幸美さんに聞く

三木 幸美（公益財団法人とよなか国際交流協会 事業主任）

下地 ローレンス吉孝（編集委員）

05 連載 「統計から読み解く移民社会①」（是川 タ）

06 編集後記 下地 ローレンス吉孝（編集委員）

3号（令和6年12月20日発行）

タイトル 「Art × 多文化共生」

01 巻頭言 是川 タ氏（編集委員長）

02 巻頭特集： ドキュメンタリー映画上映会&公開インタビュー

「Journey to be continued —続きゆく旅—」

岩井 成昭氏（美術家／秋田公立美術大学 教授、監督）

奥山 はるな氏（毎日新聞前橋支局 次長）

03 戯曲 ファミレス，グラス，居酒屋，ジレンマ

- 神里 雄大氏(劇作家／舞台演出家)
- 04 インタビュー Art × 多文化共生／飾り付けアートが孤立と貧困を支援
堀口 安奈氏(株式会社Adelante 代表取締役)
- 05 対談インタビュー
移民として生きるとは—ラッパーの Moment Joon が語る
日本での表現と認識
Moment Joon氏(移民者ラッパー)
- 06 エッセイ 親切が隠せない真実—『日本移民日記』を読み直して
Moment Joon氏(移民者ラッパー)
- 07 論文 アートと多文化共生社会
秋庭 史典(名古屋大学大学院情報学研究科 教授)
- 08 連載 「統計から読み解く移民社会③」
日本における移民の社会的統合
是川 夕(編集委員)
- 09 編集後記 榎井 縁(編集委員)

以上